

鹿児島大学高隈演習林における地域開放事業の試み*1

前田 利盛*2 ・ 松元 正美*2 ・ 井倉 洋二*2
馬田 英隆*2 ・ 枚田 邦宏*2 ・ 吉良今朝芳*2

I. はじめに

鹿児島大学には3000ヘクタールの広大な演習林がある。これまで農学部の森林・林業に関する専門教育と研究の場として利用されてきたが、近年の森林をとりまく状況を考慮するとき、一般市民や子どもたちを対象とした森林教育の場としての利用も、これからの大学演習林のあるべき姿の一つとして、重要なものと考えられる。

本稿では、鹿児島大学高隈演習林において昨年度より実施している子どもを対象とした地域開放事業を紹介し、その特徴とこれからの方向性について検討する。

II. 鹿児島大学演習林の取り組み

(1) 森と遊ぼう

文部省が昨年から推進した事業の一つに「大学等地域開放特別事業」がある。大学施設に子どもを対象とした開放プランを呼びかけたものであり、鹿児島大学演習林では、小学生を対象とした企画「森と遊ぼう」を立案し、昨年度2回、今年度3回実施した。実施内容の詳細を表-1に示す。この企画は、遊びの中から子どもたちに森林のさまざまな側面を体験してもらい、豊かな情緒と森林への認識を育んでもらうことをねらいとした。対象は小学校4～6年生とその保護者で、新聞への案内掲載と学校へのポスター配布等により参加者を公募した。

内容は、シラス洞窟の探検、自然の蔓を使ったターザン遊び、沢登り、水源地（湧水）の探査、植物採集、キャンプ、林業体験など多岐に渡っている。演習林の豊富な素材を生かし、楽しくかつ勉強になるものを目標に、演習林の職員による手作りの企画内容であった。

(2) 子ども森林教室

「森と遊ぼう」が公募企画であるのに対し、「子ども森林教室」は学校の授業の一環である。地元小学校が「総合的な学習」の時間を利用して、演習林で森林学習をす

るものである。実施内容を表-2に示す。地元大野小中学校を対象に第1回目を実施した。第2回目は、2001年1月に垂水小学校5、6年生全6クラスを対象に6日間に分けて実施する予定である。小学校の教科の中で林業がほとんど取り上げられていないことや、森林伐採は悪であるというような環境問題への過剰反応を抑制する点から、林業体験を中心に森林の利用に関する学習内容を計画している。

(3) 大学教育への展開

以上のような子どもを対象とした企画を大学教育の中に取り入れることを検討した。すなわち、子どもを対象とした森林教育の指導者養成のためのプログラムである。今回、農学部森林科学コースの学生有志の自発的な活動により、「森と遊ぼう」の第2回「森でくらそう」を全面的に運営した。学生は学ぶ立場から教える立場になり、初めは戸惑いがあったが、周到な準備とチームワークのとれた役割分担により、見事に企画を成功させることができた。大学教育の新たな可能性をきり開いた貴重な足跡であった。

III. 考察

(1) 参加者の動向

表-3および表-4に森と遊ぼう参加者の居住地別内訳と学年別内訳を示した。参加者の募集は、初年度は新聞への案内掲載、今年度は新聞のほかに学校へのポスター配布（鹿児島市と演習林近隣市町村の小学校）によった。参加者の居住地別内訳をみると、初年度は鹿児島市からが大部分で、地元垂水市と隣接する鹿屋市からの参加者はわずかであった。一般に大都市の居住者の方が森林レクリエーションに対する需要が高いため、新聞での宣伝は鹿児島市の住民に対して効果的であったと思われる。一方今年度は、地元2市やその他の市町村からの参加者が増加した。学校に配布したポスターや、昨年

*1 Maeda, T., Matsumoto, M., Inokura, Y., Umata, H., Hirata, K. and Kira, K.: A new project on forest education for children at the Kagoshima University Forest.

*2 鹿児島大学農学部 Fac. of Agric., Kagoshima Univ., Kagoshima 890-0065

度の企画の新聞記事などにより、演習林周辺の市町村住民に対しても宣伝効果があったものと思われる。参加者の学年別内訳では4年生が最も多かった。保護者の参加も10人近くあり、主に4年生と保護者が親子でレクリエーションを楽しむ傾向が見られた。5、6年生はこどもだけでの参加が多かった。表-1に示すように、リピーターの参加も多かった。初年度の第2回では、リピーターが半数を占めた(第1回の参加者に直接案内を送った)ため、今年度は過去の参加者への直接の案内はしなかった。しかし今年度も第3回ではリピーターが15人に達しており、本企画の人気の高さを示すものといえよう。

(2) 演習林企画の特徴

こどもを対象とした企画を大学演習林が実施する場合、以下のような点で他の機関が実施する同様の企画とは異なるものと考えられる。

a) 豊富な素材がある。例えば高隈演習林では、ヤクスギやケヤキに代表されるさまざまなタイプの人工林と、照葉樹二次林が約半分ずつを占める。また、小規模ながら渓谷や滝、湧水などの水環境が格好の教材を提供してくれる。b) 森林・林業のバックグラウンドがある。演習林は森林と林業の教育研究施設であり、職員は幅広い森林管理と林業を日常の業務としている。その専門性は大きな武器である。c) 教育機関である。森林・林業の教育の場として、豊富な材料とノウハウが蓄積されている。以上のような特徴は、森林教育において大きな長所であり、大学演習林は、斬新で教育効果の高い森林教育の場として大きな可能性を持つものと考えられる。

(3) 大学教育への可能性

森林を題材とした教育需要は今後益々増加すると思われる、野外教育のできる指導者養成も重要な課題である。学生が運営した企画「森でくらそう」は1泊2日のキャンプで、保護者同伴無しでの試みであった。キャンプ生

活の指導、遊びの企画、事故への対策、こどもたち一人一人への気配り、保護者への連絡など、配慮の行き届いた内容であった。今回の結果は、学生有志の自発的活動に基づく産物であったが、参加した学生たちはこの活動を通して、企画力・想像力・自主性・積極性・協調性・責任感・チームワーク、等のあらゆる点で大きな収穫と自信を得た。いま大学は組織改革と独立法人化の渦中にあり、森林科学と演習林のあり方も大きな変革を迎えることになる。今回の企画は、「森林教育」が森林科学分野の新しい柱の一つになりうることを示した。この企画をさらに発展させ、大学の教育カリキュラムへと展開させることが望まれる。

(4) 今後の課題

一連の企画を通して、「演習林は森林教育の無限の可能性を持つ教室である」と実感している。それは「こどもたちへの森林教育の担い手」であるとともに、「森林教育指導者養成の担い手」という二つの側面を持つ。これらを今後さらに発展させていくために、以下の3つを今後の課題とした。

①教育効果の評価。この企画の参加者や運営に携わった学生にとってどのような教育効果があったのかを客観的に評価する必要がある。教育学的な面からのアプローチが必要である。②教育プログラムの開発と検討。こどもを対象とした新しい森林教育プログラムと、学生を対象にした森林教育指導者養成プログラムの開発が必要である。上記の評価をもとに、教育学的な観点からの「教育効果のある」プログラムを再検討したい。③演習林業務の転換。演習林職員は従来の演習林業務に加えて、インストラクターとしての役割がこれまで以上に求められることになる。その役割を果たすためには、演習林業務の転換を図るとともに、職員個人の技量を高めるための努力も必要となろう。

表-1 森と遊ぼう実施内容(参加人数の()内はリピーター数)

| 年度 | 回 | タイトル | 期 日 | 参加人数 | 内 容 |
|------|---|------------|--------|---------|--------------------------|
| 1999 | 1 | 森のたんけんたい | 9/11 | 27 | ターザン遊び・洞窟探検・沢登り・水源地探査 |
| | 2 | 秋のめぐみをさがそう | 11/13 | 30 (14) | 木の葉、木の実集め・山イモ掘り・イモ鍋作り・工作 |
| 2000 | 1 | 川のたんけんたい | 8/19 | 33 (4) | ターザン遊び・沢登り・川遊び |
| | 2 | 森でくらそう | 9/9-10 | 15 (4) | キャンプ生活・ターザン遊び・沢登り・川遊び |
| | 3 | 木こりにチャレンジ | 11/25 | 39 (15) | 苗木植栽・枝打ち・間伐体験 |

表-2 こども森林教室実施内容

| 年度 | 回 | 学校・学年 | 期 日 | 参加人数 | 内 容 |
|------|---|-------------|---------|------|----------------|
| 2000 | 1 | 大野小中学校・全校生 | 10/7 | 23 | 森林見学・沢登り・水源地探査 |
| | 2 | 垂水小学校・5、6年生 | 1/19-30 | 220 | 森林見学・林業体験 |

表-3 森と遊ぼう参加者の居住地別内訳

| | 1999年度 | | 2000年度 | | |
|------|--------|-----|--------|-----|-----|
| | 第1回 | 第2回 | 第1回 | 第2回 | 第3回 |
| 鹿児島市 | 22 | 23 | 11 | 10 | 19 |
| 垂水市 | 1 | 2 | 9 | 1 | 5 |
| 鹿屋市 | 0 | 0 | 3 | 1 | 1 |
| その他 | 4 | 5 | 10 | 3 | 14 |
| 合 計 | 27 | 30 | 33 | 15 | 39 |

表-4 森と遊ぼう参加者の学年別内訳

| | 1999年度 | | 2000年度 | | |
|-----|--------|-----|--------|-----|-----|
| | 第1回 | 第2回 | 第1回 | 第2回 | 第3回 |
| 6年生 | 3 | 1 | 8 | 1 | 7 |
| 5年生 | 2 | 5 | 9 | 5 | 9 |
| 4年生 | 10 | 15 | 6 | 9 | 12 |
| その他 | 2 | 2 | 2 | 0 | 3 |
| 保護者 | 10 | 7 | 8 | - | 8 |
| 合 計 | 27 | 30 | 33 | 15 | 39 |